



(住所) 御所市森脇432
(祭神) 一言主大神
大泊瀬幼武尊(雄略天皇)

ス(五條バスセンター行)
で宮戸橋下車。徒歩約30分
(駐車場) 有 約10台
(電話) 0745・66・0178

葛城一言主神社 (御所市)

各地の一言主神をお祭りする神社の総本社である葛城一言主神社は、葛城山の麓(御所市森脇)の小高い台地の木立の中に東面して鎮まっています。一言主大神は、『古事記』『日本書紀』に説話があり、雄略天皇が葛城山で狩りをした時、鹿狩りをともに楽しんだ神



とあり、悪いことも良いことも一言に言い放つこと

集めています。この故事により、今日に至るまで「いちごんさん」や「いちごんじさん」という愛称で呼び習わされ、一言の願いであれば何でも聴きとどけてくださる神として信仰を集めています。

『延喜式』で「名神大社」に列せられた古社であり、境内にある樹齢1200年と伝わる銀杏の大木は、古くから、この木にお祈りすると子どもを授かり、お乳がよくでると伝えられる乳垂れ銀杏として有名です。拜殿前には、役行者が行う架橋工事の際、一

言主神が自らの容貌を恥じて夜だけ手伝ったという日本霊異記の説話にちなむ松尾芭蕉の「猶を見たし 花に明行 神の顔」の句碑が立ち、また、拜殿脇と参道脇には、神武天皇が、土蜘蛛を葛城で捕らえて埋め、「葛城」の地名説話となり、謡曲「土蜘蛛」の典拠とも伝わる蜘蛛塚が静かに納まっています。

願い一言「何でもかなう」

(奈良まほろばソムリエの会員 岡田充弘)